2020 年 9 月 27 日　司祭　越山　哲也
八戸聖ルカ教会

聖霊降臨後第 17 主日（特定 21）　説教

「何度でも再出発できるイエス様と共に歩む旅路」

〔旧約聖書〕ｴｾﾞｷｴﾙ書 18:1~4、25~32
〔使 徒 書〕ﾌｨﾘﾋﾟの信徒への手紙　2:1~13
〔福 音 書〕ﾏﾀｲによる福音書 21：28～32

主の平和が皆さんと共にありますように。

「ヨハネが来て義の道を示したのにあなたたちは彼を信ぜず、徴税人や娼婦たちは信じたからだ」

（ﾏﾀｲ 21：32）

「勧善懲悪」という視点で作られた時代劇といえば水戸黄門が有名だと思います。助さん、角さんらをお伴に世直しの旅をしながらその旅先で出会う「悪」を成敗するというある決まった型が人気の番組で私も何度も見ました。また、子どもたちが好きな戦隊シリーズも正義のヒーローが巨大な悪に立ち向かい最後は勝利を収めるという昔から今も続く人気番組です。

子ども番組ですが、内容はなかなか深いと思います。私も子どもと一緒に見ることがあるのですが、作られている視点が必ずしも勧善懲悪ではないのです。いわゆる「最後に正義は勝つ」ではなく、もっと複雑で悪役の葛藤もあって、考え直してヒーローたちと一緒に仲間になっていくシナリオもあります。何が本当の正義なのか悩み、揺れ動く複雑な気持ちの中で葛藤する場面が丁寧に描写されている子ども番組ではありますが私は好きです。

「正義のヒーロー」は格好いいですよね。子どもたちにとって憧れの存在だと思います。私は正義の日ヒーローと同じぐらい何が正しい正義なのか揺れ動く「悪役」にも心惹かれます。

私たちはそれぞれ自分の考え方、価値観を持っています。それによって物事の善悪を判断します。もちろん「好き嫌い」で判断することもあると思います。自分の考え方、価値観を「正義」とすることは大変危険です。なぜなら自分の思いを絶対化して他の人の思いを退けてしまうからです。そのことによる弊害は対人関係に及んできます。「正義」+「正義」＝平和にならないのが私たちの社会です。むしろ正義と正義がぶつかりあって争いが起きることがほとんどです。

そして、自分の中の正しさの中にいると神様との関係も影響が出てきます。

本日の福音書は、ブドウ園で働くように二人の息子に呼び掛けた父親が登場してきます。兄は最初はその呼びかけを拒否しますが、後で考え直してブドウ園に行きます。

一方、弟は呼びかけに受け入れながら、実際にはブドウ園に行きませんでした。

二人のうちどちらが、父親の望み通りにしたか・・・「兄」の方です。

弟は誰にたとえられているかというとイエス様の論敵であった律法学者たちです。彼らは法律の専門家ですから「神の教え」は誰よりも知識としてはありました。ですから、呼びかけには返事はしても自分の知識が邪魔をして神さまからの呼びかけに応えませんでした。それに対して兄は最初は自分の中の思いが勝って神様からの呼びかけに応えませんでしたが、後で考え直してブドウ園に出かけます。

したがって、「兄」の行動が神様の願い通りの行動をしたということになり、私たちもこの兄のようになりましょう。・・・ではありません。これでは福音ではなく道徳です。

私は、兄も弟もどちらも自分の正義がまず前提にあっての行動であったと思います。ただし、兄は後で考え直したところにポイントがあります。神様は何度でも考え直す機会を私たちに与えてくださいます。ですから弟が兄と比較されて悪い例のように思ってしまいますがそうではなく、神様は弟にもおそらく何度も何度もブドウ園に行くように声をかけてくださっているのではないかと思うのです。

ブドウ園に向かう道を今日の福音書では「義の道」と読み取ることができます。ブドウ園とは神の国のことです。神様がおとりしきりになる状態へ向かうようにイエス様は私たちに呼び掛けておられるのです。

私たちは人間の現実の姿を認めなければならないと思います。現実の姿とは「兄」、「弟」の両方が常に私たちの中に内在しているということ、自分自身の正しさを絶対化してしまう危うさを常に持っているということです。

徴税人、娼婦もかつてはそうであったのではないでしょうか。いや、人間の現実の姿はなくなることはありません。彼らがなぜ先に神の国に入るだろうと言われたのでしょうか。

それは彼らも現実の姿を抱えつつも自信の思いよりもまずは「神様の思い」に心を向けていたからではないでしょうか。絶えず、何が正しいのかと悩む私たちです。どれが正解か正直分からないことが多いと思います。神さまの思いといってもよく分からないというのが正直なところではないでしょうか。

徴税人、娼婦は日々悩み、葛藤していたのだと思います。「ハイ」「いいえ」と簡単に結論を出せない

現実があります。神の国へ向かう「義の道」はイエス様と一緒に歩む道です。悩みながら葛藤しながら歩む道です。何度でも再出発できる道です。その道を歩いていくことへの呼びかけが私たち一人一人にイエス様からなされているのです。